



## 院長 須藤 英仁

病院では4月1日より平成18年度が始まりました。皆様おかわりはありませんでしょうか？この原稿を書いている今、桜の花は満開となっております。今年度入社した新人は実に20人でした。病院の補強と言うことを考えれば、まさに満開であります。しかしながらこの貴重な若人をしっかりと実らせ、医療人として成功させることは容易なことではなく、私たち病院・老健の幹部職員の責任も重大です。

患者さんの皆様は年に数回病院研修会のため、午後の外来開始時間が30分遅れる日があることを、知っている方もいるかもしれません。その日は2時間に渡り、各部署よりテーマに沿った発表が行われ、ケンケンガクガクの議論がされます。今回の4月6日のテーマは病院内の職員研修がテーマでした。新人教育はもちろんですが、卒後数年たった看護師、理学療法士、事務員などの研修体制が大きな課題でした。私たちの病院職員の行動規範として『私たちの約束』がありますが、その中に「私たち

は常に進歩します」という題目があります。まさにこのことの実行のために、何をすべきなのかについて議論いたしました。

具体的に看護師教育について述べますと、新人看護師については4月からの1年間、毎月の基本技術の到達事項を設定しました。四月は「患者さんの血圧・脈拍状態など正確な報告が出来る、からはじまって、最終的にはリーダーとしての立場で全体が見渡せるという到達点までです。また卒後数年たった看護師には自分のレベルを正確に自覚させ、どのような看護師を目指すかという具体的な目標を持たせるというものです。

現在看護師では専門看護師・認定看護師といい、特定の看護分野（糖尿病・院内感染症など）で、熟練した看護技術と知識で、水準の高い看護実践のできるような教育がなされてきております。今後はこのような資格取得を目指していけるよう、さらなるレベルアップをはかりたいと思っております。

医療事故はどんな時に起こりやすいかという検討を行いますと、やはり新人が入った4月～6月頃が多いという検証結果もでております。病院全体で心を引き締め対応していきたいと思っております。患者さんも気がついたことは、どうぞ遠慮なくお知らせ下さい。今年度も当院をよろしく願います。

# 今年度の看護体制と教育について



看護部 部長  
浦野 美代子

桜の花も満開になり春爛漫の季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。新年度を迎え私どもの病院には新人が各部署合わせ二十名入社しました。看護師・看護学生・理学療法士・管理栄養士・介護職員・事務職員に従事する人たちであります。教育計画に沿ってしっかりと教育をしております。専門職のプロに育てることは、職員一同に課せられた責務であります。

さて平成18年度は医療・介護にとって大きな変革の年になりました。四月一日より診療報酬・介護報酬が改定になり、診療報酬は3.16%、介護報酬は0.5%引き下げになりました。診療報酬改定に伴い当院では看護体制を「2.5対1」の配置から「2対1」（改定後言う10対1）の配置基準への変更を申請中です。

この10対1看護体制と言いますのは、日勤9名、準夜勤3名、深夜

勤3名の看護師が常に配置されていることを言います。このことは手厚い看護配置の必要性が求められてきたからで、看護部一同で頑張っております。今後ますます質の高い看護が要求され、看護師の専門性が厳しく問われる時代になっていくと思います。そこで専門看護師、認定看護師が必要になってきます。研修等に積極的に参加し資格取得を目指し、看護部全体のレベルアップを図っていきたいと考えております。

安全で安心できる医療・看護・介護を目指し、地域に密着した信頼される病院となるように、職員一同が一丸となって取り組み努力しております。地域の皆様、患者様、ご家族の皆様、これからもご支援、ご鞭撻の程どうぞよろしくお願いいたします。

何かお困りのこと、ご意見等ありましたら、ぜひお聞かせ頂きたいと思っております。直接言いにくいご意見等は、意見箱が設置してありますので、そちらまでお願いします。今後のサービス向上の参考にさせて頂きたいと考えております。

# 須藤病院・老健めぐみご利用の皆様へ

～ 就 任 の 挨拶 ～



事務長  
山口彦次

この4月より事務長としてお世話になります山口です。3年ほど関連施設のケアハウス（軽費老人ホーム）「ジョリエやなせ」で働かせていただきましたが、またこちらに戻ってまいりました。どうぞよろしくお願いたします。また、ジョリエやなせの入居者の皆様には大変お世話になりました。ジョリエの皆さんは、実年齢を聞いてびっくりするほど皆お若く、その元気パワーをこちらがいただき、日々の仕事に励むことができました。この場をお借りして感謝いたします。

さて、古巣に戻ったような気持ちも束の間、3年前の須藤病院とは大きく変わっておりました。特に大きなことは病院評価機構の認定を受けた病院となったことでもあります。それは院長はじめ職員が一丸となって取り組んだ血と汗と涙の結晶とでも言うべき成果だと思います。言葉遣いから始まり、常に患者様や利用者の方々の立場

に立ったサービスを提供することが私たちの努めであることを強く感じさせられました。地域に密着した医療や介護を担う重要な病院として、また老人保健施設めぐみをはじめとする介護関係事業所が「私たちは進歩します」という「私たちの約束」の中にある言葉どおり、常に患者・利用者様のニーズにあった進化を心がけていきたいと思いました。そのためにも充実した内部研修の継続と外部研修で得たものを内部にしっかりと伝達し、幅広い知識と技術を身につけていかなければなりません。

病院が新しくなる計画も進行中です。しかし、4月からの診療費や介護報酬のマイナス改定により、その方向性を誤ると今まで築き上げたものがすべて崩れ去るほど重要な時期を迎えようとしております。単なる請求や会計で終わるのではなく、全体を見渡し、我々が進む方向を間違わないよう舵取り役としての事務を築き上げたいと思います。どうぞよろしくお願致します。